ニッポン美人化計画

Text: Ryoko Kobayashi

MAKE-UP: UDA (S-14)

MISSION
67

2015.12

PHOTO: Shunya Arai (yard)
STYLING: Ayaka Endo (TRON)
HAIR: KANADA (LAKE TAJO)

今シーズン、キーワードのひとつになっているフォークロア。素顔に、ヴィヴィッドなアイメイクをアクセントにして、メイクアップでも攻略。

ニットトップ ¥60,000(3.1 フィリップ リム | 3.1 フィリップ リム シャパン)／ピアス、ネックレス＊共にスタイリスト私物／リング＊モデル私物

今月のミューズが生まれるまで

長南千晴さん
飲食店勤務
2015. 10. 5 at Omotesando
Photo: UDA

表参道のファーマーズマーケットで出会った長南さん。現在は東京で働いているが、過去に2年間、長野でそば打ち修業を経験。休暇にはイルカや皆既日食を見に行くという。

「彼女が“私のアイデンティティ”と話す、明るくトーンアップした眉のこだわりに、どことなくエスノなムードを感じました。都会と田舎の自然、両方が好きな彼女だから、今っぽさもミックス、タトゥーのようなバンキッシュなポイントをつくることに」（UDAさん）

ラウンドさせたウィッグの前髪に、ネイティブなニットとアクセサリー。そこに合わせたのが、ヴィヴィッドなアイメイクだ。

「マスカラは、赤を睫毛の先端だけに。ピンクのアイラインは、上瞼は目頭を抜いて引き、下瞼は中央のみという入れ方で、色をピリッと効かせました。あとは、生っぽく見えないように、肌や唇の赤みをフラットに。普段の長南さんのメイクに近い、すっぴんのような整え方で彼女自身になじませました」（UDAさん）

今回は、素顔の状態でまずアイメイク。カーラーで角度をつけた上睫毛に黒のマスカラを塗ってベースを作り、乾かないうちに毛先半分だけにボビーレッドのマスカラ(2)を重ねる。このときのカラーマスカラは、上からひと塗りし、あとは下から持ち上げるようにするのがカールを崩さないコツ。次はピンクのアイライン(1)。黒目を挟むように、上下瞼の中央の睫毛の生え際にラインを引く。マスカラを使わない場合はこのままでも良いが、今回は全体のバランスで、上瞼の目尻側を長く延ばした。小鼻や鼻に点在する赤みに、薄づきのコンシーラーを塗り肌色を均一に整える。リップは、ダークトーンのプラムを薄く重ね、落ち着いたトーンに。ネイルは、スモーキーなベージュ(3)。服との相性のいい曖昧な色をセレクトした。

UDA

メイクアップアーティスト。雑誌・広告のファッション&ビューティ、女優やアーティストを担当。緻密な理論に基づくテクニックは日々進化中。本企画では、モデルハントやディレクションも。最近は素肌感のある新感覚のベースメイクに注目。

3　2　1

1: ツヤのあるテクスチャー。なめらかに描けて、くすみに負けずにくっきり発色する。ドローイング ペンシル #MEピンク 12 ¥2,400(シュウ ウエムラ)
2: 朱色がかったクリアな赤。お湯でオフできるウォータープルーフ。デコラガール クービー柄カラーマスカラ #ボビーレッド ¥1,500(クレアモード)
3: 一度塗りできちんと色づきツヤが持続。ネールカラーコレクション Ⅱ #5レザー ¥400＊限定発売中(エテュセ)

美人化モデル募集中『ニッポン美人化計画』では、街でのハントに加え、ページに登場してくれるモデルさんの募集を本格スタートしました！ 自薦・他薦は問いません。
UDAさんのメイクアップで、新しい自分を発見してみませんか？ 受け付けはFacebookから。https://ja-jp.facebook.com/mhginza